

## 第21回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」報告書

8月16日に17名で（他教室参加者など5名を含む）開催いたしました。今回の題花「コナギ」は参加者の誰も知らない植物でした。



コナギの花



コナギの最終的なハート型の葉



ミズアオイ



一年生の水田雑草であるコナギは成長と共に葉の形が変化するのが大きな特徴です。花が葉の下に咲き昆虫にも見つけてもらいにくいことから自家受粉するようになったそうです。コナギは葱(ナギ)の小型のものということから命名されました。ナギは今ではミズアオイと呼ばれています。コナギは有史以前に稲や麦と共にもたらされた史前帰化植物であり、他に旧帰化植物(江戸時代前に渡来)と新帰化植物(江戸時代以降に渡来)があることも知りませんでした。コナギは成長が稲より早く稲の成長を阻害することから厄介な害草として処分されるため花を見る機会はめったにありません。コナギの名のもとになったナギ(ミズアオイ)は東日本大震災の後、津波を受けた地域にその群落が現れ、震災復興のシンボルとして大事にされていますが、絶滅危惧植物のひとつだそうです。何年も眠っていた種が芽吹く強い生命力に驚かされました。

万葉集ではコナギは3首、ナギが1首詠まれています。そのうちコナギの2首を教えてくださいました。どちらも東歌です。ここで「東歌」とはどういうものか、また、東歌と防人の歌の違いなどを教わりました。万葉集全体では雑歌(そうか)が一番多いが、第14巻の東歌230首の中では相聞歌が188首と一番多いこと。東歌に対してなぜ西歌なるものは存在しないのかの理由。東国を構成していた上野国(かみつけのくに)や下野国(しもつけのくに)など12国のこと。東歌は民謡風の和歌のため作者は不明であること。労働や身近な動植物を扱っており生活に密着したもので、健康的で露骨でもあり方言や俗語などを用いた素朴な歌であることなどです。

さらに東歌で一番有名な「多摩川」の歌、先生が講座を持っている「湯河原」と「群馬太田」の東歌もご紹介いただきました。また、先生が大学で「植物から入る万葉集」を学ぶことになったきっかけ、「雑草」を食べたお話し、そして、13年前に湯河原で万葉集を楽しむ会を開いた経緯などもお聞きしました。最後にみなで東歌6首を唱和して調べを楽しみました。

(東歌は少し読みにくい)



先生の着物はコナギの花の色の鮮やかな青紫で、帯は種が水に落ちて紐状に繋がったような模様です。帯留めも青紫色で統一でした。

次回第22回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」のお知らせ

令和5年10月18日(水) 10:00 ~ 12:00 プララ杉田505号室

参加費 1,500円 ◎参加申し込みは長谷川嘉子にお願いいたします [mondlicht.y.20@gmail.com](mailto:mondlicht.y.20@gmail.com)

令和5年8月25日

文責: 三浦美智子・高木紀世子

5日前からのキャンセルは参加費をいただくのでよろしくお願ひいたします (資料は後日お渡しいたします)

◎10月18日(水) に都合の悪い方は講師に直接ご連絡ください [paksara3t@gmail.com](mailto:paksara3t@gmail.com) (cc 長谷川)